

1 1. 教育

	タイトル	意見等
1	県立高等学校の魅力化並びに魅力度アップについて	○ 後藤田正純徳島県知事と徳島県教育委員会が一体となつて、県立高等学校のすべての普通科を文理科へと学科改組を行う。 ※ 大学の経済学部・経営学部・商学部での経済学，経営学，会計学，統計学，財政学，簿記論では数学の知識が必要 ※ 大学の人間科学部では、数学が必須科目 ○ 徳島県立徳島北高等学校を徳島県立徳島国際高等学校へと校名変更する。⇒徳島県における国際化の推進を図る。 ※ 東京都立国際高等学校，神奈川立横浜国際高等学校，兵庫県立国際高等学校の例 ○ 徳島県立鳴門高等学校，徳島県立阿波高等学校，徳島県立協町高等学校に理数科の復活を行う。
2	公立高学区制について	学区制については議論が停滞しているように見えます。 理想としては全県1区制（学区制廃止）ですが、暫定的に徳島北高を全県1区校にする案は打開策としては良いと思います。 また城北高、城南高、徳島市立高も全県1区校にすると不公平感はほぼ解消されると考えます。 現状、育成型選抜では県内外からスポーツ等に優れた生徒が徳島市内の普通科高校に入学しており、一般入試で受験する中3生等はやや苦しい戦いになっています。 あるいは、第3学区との重複地域を鳴門市、板野町、上板町、石井町、小松島市、勝浦町等に拡大することも一つの方法でしょう。 いずれにせよ、徳島市内の総合選抜制度を廃止し、高校生の学ぶ意欲が増し進学成績が向上しているのは事実です。 育成型選抜により、少子化で部活動の維持が厳しくなっている中、優秀な生徒を集めているということもあります。 徳島市外の高校でも徳島市内の中学生が進学することで刺激を受け、学校がこれまで以上に活性化することが期待されます。 JR利用による通学生の増加も想定されます。 学区制につき早急に結論を出す時期に来ていると思います。